

えのもとだより

心原性脳塞栓症を予防するために

【心原性脳塞栓症は何が怖い？】

一般に言われる「脳梗塞」には、以下の3種類が存在します。

- ①：ラクナ梗塞
- ②：アテローム血栓性脳梗塞
- ③：心原性脳塞栓症

その中で一番重症化し、予後が不良とされるものが心原性脳塞栓症です。他の脳梗塞と比べ血栓が大きく、脳の太い血管を詰まらせたり、血栓がちらばって脳のいたるところに脳梗塞を起こすことがあります。約52%の方が死亡、寝たきり、要介護となってしまう。有名人の中では、元首相の故・小渕恵三さん、元巨人軍監督の長島茂雄さん等が重度の障害、または亡くなられています。

この心原性脳塞栓症は、心房細動という疾患が原因で発症すると言われています。



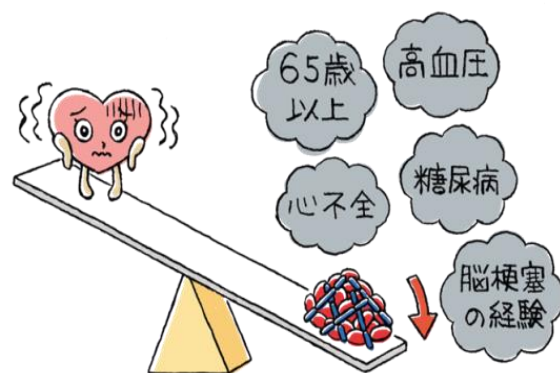
【心房細動とは】

心房細動は心臓の心房部分が不規則に震えて、正しい拍動ができなくなった状態をいいます。高齢者に比較的起こりやすいのが特徴で、高齢社会を迎えた今、患者数は増え続けています。心房細動そのものは、直ちに命を脅かすものではありません。しかし、心房細動が原因で心臓に血栓ができやすくなります。

血栓が心臓から飛び出し脳の血管を詰まらせると、心原性脳塞栓症を起こします。

【こんな心房細動患者さんは要注意！】

- ① 心不全などの心臓病のある人
 - ② 糖尿病の人
 - ③ 高血圧の人
 - ④ 高齢(65歳以上)の人
 - ⑤ 過去に脳卒中(脳出血・脳梗塞)を経験した人
- 心房細動があって、上記の項目に当てはまる人は心原性脳塞栓症を起こす危険が高くなります。



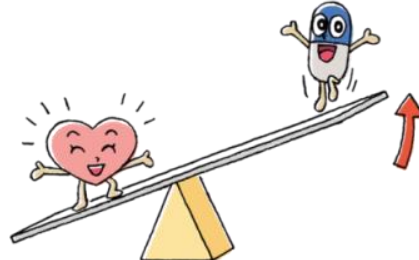
【抗凝固療法】

心原性脳塞栓症を予防するためには、血液を固まらせる働きを抑え、心臓に血栓ができるのを防ぐお薬(抗凝固薬)が必要です。

この抗凝固薬は、自分の判断で飲むのを止めてしまったり、薬の量や回数を変更したりすると、出血や脳梗塞を予防できないことがあります。必ず医師の指示通りに服用することが重要です。



抗凝固薬は血をかたまりにくくし、血栓ができるのを防ぎます。



【以下のような症状がある場合には、まずは医師に相談しましょう！】



心原性脳塞栓症は重症化する疾患です。しかしながら、心房細動を早期発見、早期治療を行えば、予防することも可能です。

また、これからの季節、健康診断等で心電図検査を受けることもあると思います。何か異常が発見された際は、ご自身で判断せず、必ず医師に相談しましょう。

特に心房細動は、高齢のせいと決めつけてしまう、直ぐに治まるから大丈夫と自己判断してしまいがちな疾患です。

ご自身やご家族のためにも、疾患を理解し、心原性脳塞栓症の予防を行いましょう。

